

総合研究大学院大学 先端学術院 先端学術専攻

# 日本文学研究コース

110116

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style, likely related to the course's focus on Japanese literature.



- 交通のご案内
- 多摩モノレール利用の場合  
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、「高松」駅下車、徒歩10分
  - 立川バス利用の場合  
JR立川駅北口②番乗り場乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分  
JR立川駅北口①番乗り場乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分  
JR立川駅北口②番乗り場乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分
  - 徒歩の場合  
JR立川駅下車、徒歩約25分

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style, continuing the theme of the course.

## 目次

- 館長あいさつ・コース長あいさつ ..... 2
- コースの特色 ..... 3
- 教員紹介 ..... 5
- 授業科目一覧 ..... 8
- 特色ある授業 ..... 9
- さまざまな学びと発表の場 ..... 9
- 入学者選抜試験について ..... 10
- 学位の取得について ..... 11
- 修了生の進路 ..... 11
- 学位論文リスト ..... 12
- 在学生の声 ..... 13
- 学位取得者からのメッセージ ..... 14
- 総合研究大学院大学について ..... 15
- よくある質問 ..... 16
- 国文学研究資料館の概要 ..... 17

日本文学研究コースは、国文学研究資料館を基盤機関とする、博士課程後期のみからなる大学院です。国文学研究資料館は、原本資料調査に基づき、膨大な学術情報を集積・研究する先進的な大学共同利用機関であり、本コースでは、同館が創設以来、半世紀にわたって蓄積してきた膨大な文化資源と研究ネットワークを活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

具体的には、文化資源のうち文献を主とした二次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

### ◇大学共同利用機関とは

国内外の大学研究者が共同で利用でき、各種の高度で大型の研究施設や実験設備、貴重な学術資料等を保有する、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関です。研究活動の多くは非常に基礎的であるとともに大規模な施設等を要し、莫大な投資を必要とします。そのため、予算や研究効率等の面から大規模な研究活動に必要な人材や研究資金等を重点的に投入し、独創的かつ最先端の研究を行っています。

## 館長あいさつ



国文学研究資料館長

渡部 泰明

国文学研究資料館は、1972年の発足以来、明治期を含めた国内外の日本文学に関する資料の調査・収集、マイクロフィルム及びデジタル画像による公開を行いつつ、世界の中で日本文学研究の拠点として、事業を進めてきました。2008年に立川市に移転し、広いスペースと行き届いた閲覧機能を持つ、一層充実した環境になりました。

創設以来取り組んできた収集事業に加え、当館では2014年度から2023年度まで、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）の10カ年事業に取り組みました。人文系領域にとどまらず、あらゆる分野の古典籍のデジタル画像を収集し、データベースを構築するという計画です。2024年度からはその計画を継承し発展させる「データ駆動による課題解決型人文学の創成」事業を進めています。日本国内外の日本文学研究者の研究拠点として、画像データのテキスト化やこれを活用した共同研究も進めています。

総合研究大学院大学文化科学研究科に日本文学研究専攻が設置され、国文学研究資料館がその基盤機関となったのは2003年のことでした。2023年度から、同専攻は日本文学研究コースとなりましたが、教育・研究のための環境に大きな変更はありません。豊富に蓄積された研究書や雑誌類、原典・画像資料を駆使して研究を行えるという点において、国文学研究資料館ほど恵まれた環境は無いでしょう。多彩な教員たちの指導のもと本コースで学び、学位を取得した修了者には、すぐれた業績をあげて、研究者として活躍している人も数多くおられます。こうした優秀な先輩達に続く、日本文学研究を志す方々をお待ちしております。

## コース長あいさつ



日本文学研究コース長

西村 慎太郎

日本文学研究コースは人間文化研究機構国文学研究資料館を基盤とし、2003年に総合研究大学院大学の一専攻として発足しました。国文学研究資料館の前身となる文部省史料館は1951年に、国文学研究資料館は1972年に創設され、以来、長きにわたって国内外の研究機関・研究者と連携し、国内各地の日本文学等にかかわる様々な分野の古典籍あるいは古文書を大規模に集積し、日本文学をはじめとする諸分野の研究者・市民の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進してきました。国際日本文学研究集会をはじめとした多くの研究会、日本古典籍講習会やアーカイブズ・カレッジなど実務を担う人材育成のセミナーを開催し、近年では異分野と融合した研究の推進として、文部科学省大規模学術フロントティア促進事業に取り組んでいます。こうした先進的な研究・事業と本コースは連携した修学の場を提供しており、多くの修了生が研究者として活躍しています。

本コースには日本文学・歴史学・アーカイブズ学・情報学等の教員がおり、学生の研究を大きく進展させるため、一緒に研究の伴走をしています。多くの原資料の取り扱い、資料の読解・分析・解釈といった研究の基礎を学び、一人前の研究者として博士号取得ができるよう最善の環境を提供しています。本コースで学び、研究することによって、人文科学がどのように現代社会の諸課題に解決し得るか、はつきり分かるものと思います。

多くの疑問や課題をもってください。本コースで学び、研究することでその問いを解決し、また新たな疑問や課題が生じるという好奇心のループは皆さんの人生を豊かなものにするでしょう。新たな研究視座を獲得することを願います。

### 3つの特徴



### 複数指導体制

日本文学研究コースには19名の教員がおり、それぞれの専門を活かした授業科目を担当しています。  
 研究基礎論では、全ての教員が専門性に即した最新の、また大学院生にとって基本となる内容を講義しています。  
 学生一人に対して主任指導教員1名、副指導教員2名によるきめこまやかな論文指導を行っています。

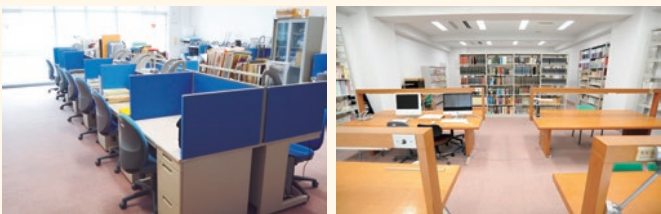
### 経済的支援

学生の研究活動を支援するため、さまざまな制度があります。代表的なものをご紹介します。  
**● 研究活動の旅費等の支援**  
 研究活動の一環としての資料調査や、学会に出席するための旅費等を補助しています。  
**● 書籍購入**  
 希望する書籍の購入支援を行っています。  
**● 資料複写**  
 館内専用の複写機を使用した複写は無料です（上限あり）。  
**● ノートパソコンの貸与等**  
 在学中、ノートパソコンを一人一台貸与しています。  
 また、院生室には、スキャナー・製本機などもあり、資料整理等がしやすい環境が整っています。  
**● リサーチアシスタント（RA）への積極的な雇用**  
 日本文学研究コースの基盤機関である国文学研究資料館のリサーチアシスタント制度に基づいて、学生は研究プロジェクト等の研究補助者として補助業務に従事することができます。この業務の対価として給与が支払われます。

### 充実した教育研究環境

国文学研究資料館には創設以来半世紀にわたって集積された、重要文化財等原本2万点、古典籍や近代文献の収集マイクロ資料20万点、歴史史料512件（52万点）、活字資料21万冊があります。

立川の広々とした設備には、院生図書室・談話室なども整い、学生はのびのびと研究生活を謳歌しています。



院生室

院生図書室



閲覧室



紙焔本の書棚



書庫

## 教員紹介

日本文学研究コースの各教員の専門分野は次のとおりです。本コースに入学を希望する方は、出願前に、入試説明会等の機会を活用し、指導を希望する教員へ入学後の研究計画や研究内容等について早めに相談してください。

教授 ● 入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi

江戸時代の学芸のあり方を中心として研究している。講義では、東アジアの出版史の中に日本を位置づけ、その考察から日本文化の特徴を明らかにすることを試みている。著書に『武家権力と文学―柳営連歌』『帝鑑図説』(ぺりかん社、2013)、『漢字・カタカナ・ひらがな―表記の思想』(平凡社、2016)がある。

教授 ● 岡崎 真紀子 OKAZAKI Makiko

中古文学・中世文学、特に平安時代から室町時代までの和歌と歌学および連歌を主な研究領域としている。著書に『やまとことば表現論―源俊賴へ』(笠間書院、2008)、『発心和歌集 極楽願往生和歌新注』(青簡舎、2017)、『梵漢和の中世―言語と論理の和歌史』(勉誠社、2026)がある。

教授 ● 神作 研 KANSAKU Ken'ichi

近世文学の種々相を、雅俗と和漢、出版文化史、明清文化の受容等に配慮しながら考察、特に和歌史・学芸史研究を専攻している。著書に『近世和歌史の探究』(角川学芸出版、2013)、『江戸の通信添削―美濃加治田平井家のものがたり』(平凡社ブックスレット、2025)、『てのひらの江戸―古典籍を旅する―』(東京四季出版、2025)などがある。

教授 ● 木越 俊介 KIYOSHI Shunkei

江戸時代中後期の小説、特に『読本』と呼ばれるジャンルを中心に、「人情本」などにも興味を広げて研究している。さらに、書籍の出版・流通や当時の版權などについても調査している。著書に『江戸・大坂の出版流通と読本・人情本』(清文堂出版、2013)、『霧旅漫録 付・葦笠雨談』(平凡社、2022)、『知と奇々めぐる近世地誌 名所図会と諸国奇談』(平凡社、2023)がある。

教授 ● 齋藤 真麻理 SAITO Maori

室町時代から江戸時代前期の文芸、とくに物語を主な対象とし、説話、絵画、芸能、中国明代の文物等との連関や文学圏域の検証を通して、中世日本の学芸の諸相を研究している。著書に『一乗拾玉抄の研究』(臨川書店、1998)、『異類の歌合 室町の機智と学芸』(吉川弘文館、2014)、『妖怪たちの秘密基地―つくもがみの時空』(平凡社、2022)、編著に『「戯画図巻」

の世界―競う神仏遊ぶ賢人』(KADOKAWA、2024)などがある。

教授 ● ダヴァン ディーエイ DAVIN Dieter

室町時代から近世にかけての臨濟宗の思想的な変貌と社会への普及を研究している。所謂五山派と異色の禅風を放った大燈派(主には大徳寺と妙心寺)の新しい社会層との交流を中心に検討しているが、近世に流行った仮名法語などの意義も視野に入れる。著書に『無門関』の出世双六―帰化した禅の聖典』(平凡社、2020)がある。

教授 ● 中西 智子 NAKANISHI Satoko

『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語文学を主な対象に、その生成と受容、表現的連関、和歌の引用に関する検討を行っている。著書に『源氏物語 引用とゆらぎ』(新泉社、2019)、『紫式部の「ことば」たち 源氏物語と引用のコーラージュ』(平凡社、2024)、共編著に『藤原彰子の文化圏と文学世界』(武蔵野書院、2018)がある。

教授 ● 西村 慎太郎 NISHIMURA Shinro

歴史学、主に日本近世史が専門。近年では被災地や人口減少地域の歴史資料保全と歴史・文化の継承を自治体や住民と進めている。著書は『近世朝廷社会と地下官人』(吉川弘文館、2008)、『宮中のシエフ、鶴をさばく』(吉川弘文館、2012)、『生実藩』(現代書館、2017)、『大字誌浪江町権現堂』のススメ 1・2 (いりの舎、2021・2023)、『そもそもお公家さんってなに?』(現代書館、2023)、『古文書解読事始め 福島県大熊町の古文書で学ぶくずし字入門』(番山房、2024、共編著)など。

教授 ● 藤實 久美子 FUJIZANE Kumiko

日本近世・幕末維新期の書籍史料研究およびアーカイブズ学を専門とする。実用書分析と江戸社会の復元的考察、人事情報の商品化のしくみと書物問屋・政権、徳川將軍家の文庫管理、維新政府の官版出版に関する研究がある。編著書『近世書籍文化論』(吉川弘文館、2006)、『江戸の武家名鑑』(吉川弘文館、2008)、『近世日記の世界』(共編、ミネルヴァ書房、2022)。

教授 ● 山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki

十九世紀の日本文学、特に山東京伝や石川雅望の読本、加藤千蔭の和学、仮名垣魯文の草双紙などを対象に、作品構想やその出版をめぐる動向について幅広く研究を進めている。著書に『近世戯作の「近代」』(勉誠出版、2019)、『近世後期江戸小説論攷』(勉誠出版、2023)、『江戸小説絵を読む愉しみ』(平凡社、2025)などがある。

教授 ● 渡部 泰明 WATANABE Yasuaki

古代後期から中世にかけての和歌文学を主たる研究領域としている。古代社会の産物である和歌が中世においてなぜ衰微することなく存在し続けたかについて考察してきた。近年は、和歌史全体を扱うよう心掛けている。著書に『和歌とは何か』(岩波書店、2009)、『中世和歌史の研究 様式と方法』(岩波書店、2017)、『雲は美しいか 和歌と追想の力学』(平凡社、2023)などがある。

准教授 ● 太田 尚宏 OTA Naohiro

江戸幕府・諸藩において地域支配を直接担当した代官・地役人などが、いかに地域の実情を把握・勘案しながら行政課題を実現していったかを、江戸近郊地域や飛騨幕領・尾張藩領などの記録史料をもとに、支配システムと文書の作成・授受の関係などアーカイブズ学的観点からの分析も行いつつ研究する。著書『幕府代官伊奈氏と江戸近郊地域』(岩田書院、2010)参照。

准教授 ● 川上 一 KAWAKAMI Hajime

中世文学、特に室町時代の和歌文学を主たる専門領域とし、作品の成立および伝播の過程を書誌学・文献学的手法を用いて復原することを目指している。またこの時代の和歌行事(歌会・歌合・着到和歌)や、そこでの会席作法にも関心があり、現存する遺品(短冊・懐紙・詠草)と記録・作法書類との内容分析から、これら興行の実態解明を試みている。

准教授 ● 菊池 信彦 KIKUCHI Nobuhiko

専門は、デジタル(パブリック)ヒューマニティーズ、デジタル(パブリック)ヒストリー。成果に『人文学を社会に開くには…パブリックヒューマニティーズから考え・行動する』(編著、文学通信、2025)、『デジタルヒストリーの実践する・データとしてのテキストを扱うための、ヒギナーズガイド』(大沼太兵衛との共訳、文学通信、2022)、『19世紀スペインにおける連邦主義と歴史認識―フランシスコ・ピ・イ・マルガルの生涯とその思想』(関西大学出版部、2022)等。

准教授 ● 栗原 悠 KURIHARA Yuuka

1920〜30年代の島崎藤村の社会思想の受容研究を端緒として、近代文学に描かれた暮末〜明治維新期の表象について研究を進めている。この時代はさまざまな文脈で近代の始点として自明視されているが、文学テクニクスの分析を通じてそうした認識がどのように広まっていったのか考えたい。著書に『島崎藤村と創作の論理 一九二〇〜三〇年代の「社会」と「役」の思想』(有志舎、2025)がある。

准教授 ● 多田 蔵人 TADA Kurahito

永井荷風の江戸文化受容の研究から出発して、日本文学にあらわれた「引用」の意味を明らかにする研究を行っている。小説や詩などにおける「言葉の選び方」が端的に表れる「引用」の役割に着目することで、背後にある文化も視野に入れ、その作品のメッセージを探ることを試みている。主な著書に『永井荷風』(東京大学出版会、2017)、『荷風追想』(岩波書店、2020)など。

准教授 ● 西口 正隆 NISHIGUCHI Masataka

日本近世・近代の交通史・流通史、地域史を専門とする。記録史料を用いてモノ資料の管理・伝来過程の解明にも取り組む。編著書に『土浦モノ語り―資料が語る土浦の歴史―』(土浦市立博物館、2023)、『古文書解読事始め2―福島県浪江町の古文書で学ぼう―』(番山房、2025)など。

准教授 ● 高尾 祐太 TAKAO Yuta

中世文学の基盤を為す知識の体系を明らかにすると同時に、その知的基盤に照らして文学作品のテクニクスを丁寧に読解する研究をしている。研究対象は、中世の和歌注釈・歌論・連歌論を中心とし、謡曲・軍記・説話をも射程に収め、それらの基盤として共有されている仏教・儒教・道教の三教(或いはそこに神道を加えて四教)一貫的な知識体系を探究している。

准教授 ● 守岡 知彦 MORIOKA Tomohiko

漢字や漢字文献を対象とした人文情報学を専門とする。近年では漢字研究に関するデータセットの長期保存や異なるデータセットを繋げる試みに取り組んでいる。代表作に文字情報サービス環境 CHS(CHSisong)、主要論文に「通時的な多粒度漢字構造情報記述の試み」(情報処理学会論文誌 65(2)pp.340-347)、「典拠情報へのリンクを考慮した漢字の異体字情報記述の試み」(情報処理学会論文誌 67(2)pp.251-259)などがある。

## 授業科目一覧

授業科目	単位	担当教員
アーカイブズ学入門	2	教授 藤貴 久美子
総合書物論	2	教授 木越 俊介
英語表現基礎演習	2	授業担当講師(外部講師) 亀井ダチアンドリュウ
高等表現能力演習	1	教授 齋藤 真麻理
資源研究演習	1	教授 中西 智子
研究基礎論1	2	関係教員 関係教員
研究基礎論2	2	関係教員 関係教員
書写文化論1	2	教授 岡崎 真紀子
出版文化論1	2	教授 木越 俊介
出版文化論2	2	教授 入口 敦志
資源集積論1	2	准教授 太田 尚宏
作品形成論1	2	教授 齋藤 真麻理
作品形成論2	2	教授 渡部 泰明
作品享受論1	2	教授 神作 研一
作品享受論2	2	准教授 多田 蔵人

授業科目	単位	担当教員
文学思想論1	2	教授 タウン デイエイ
文学芸術論1	2	准教授 川上 一
文学芸術論2	2	教授 山本 和明
文学社会論1	2	教授 藤貴 久美子
文学情報論1	2	准教授 守岡 知彦
書物情報論1	2	准教授 栗原 悠
記録情報論1	2	准教授 西口 正隆
記録情報論2	2	教授 西村 慎太郎

※担当教員が変更になる場合があります。



作品形成論 1



研究基礎論 1

## 特色ある授業

### 資源研究演習

本授業では、日本の古典籍の特質把握とその歴史の変遷に関する知識習得を含む、日本古典籍および明治期文献についての総合的理解と研究方法の習得を目指す。具体的には、表紙や料紙といった書物を構成する要素についての理解と分析手法の習得、写本や刊本の成立と伝来に関わる奥書・識語や刊記・奥付に記される情報の理解と分析手法の習得、蔵書印や出版文化の理解といった書物の流通に関わる知識の習得など、書誌学、文献学、蔵書史等につながる複合的な視点から、また具体的事例に即して、日本古典籍および明治期文献を対象とする研究の在り方について学ぶ。

### 【到達目標】

● 日本文学及びその関連資料の原典資料（古典籍等）の書誌学的事項についての基礎的な事柄について理解し、実際にデータを習得しそれを研究データとして処理することができる。

### 研究基礎論

日本文学研究コースのすべての担当教員が前期・後期に分かれ、オムニバス形式で授業を担当する。最大の魅力は、日頃は接する機会の少ない領域の教員からも親しく専門知識を学べる点にあり、多彩な講義内容は視野を広げるためのヒントに満ちている。

### 【到達目標】

● 文献、画像、記録などの資料に関する研究の現況及び課題について理解し、説明することができる。  
● 本授業で学んだことがらを活かして、自分の考察対象とする資料料について、文献学または記録史料研究の中に位置づけ、説明することができる。

## 入学者選抜試験について

### ◆求める学生像

- 日本文学研究コースは、次の点を兼ね備えた学生を求めます。
1. 日本文学及其その周辺分野の研究に高い関心と強い意欲を有する人
  2. 文化資源を活用しながら研究を進めると、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等を修得することに意欲のある人
  3. 論理的な思考能力や文章表現力、独創的視点を有する人
  4. 新しい研究を目指して、独創的な視点を有する人
  5. 国際的・学術的に研究成果を発信する意志と熱意を持った人

### ◆入学者選抜の基本的な考え方

1. 第一次選抜（書類選考）においては、志望研究内容等、本コースが提出を求める資料に基づいて選考を行います。
2. 第二次選抜（論文審査・面接）においては、修士論文等の実証性・論理性・独創性等、基礎的な研究能力を重視し、かつ、論文内容・専門知識・研究計画等に関する口頭試問を通じて、研究者としての適性を判断します。

出願資格認定 審査※1	2026年11月4日(水)	2026年11月6日(金)
入学願書 受付期間	2026年12月3日(水)	2026年12月9日(水)
願書提出先：総合研究大学院大学 学務課学生係		
第一次選抜 (書類選考)	2026年12月中旬	2027年1月上旬
第二次選抜※2 (論文審査・面接)	2027年1月28日(水)実施予定	予備日：2027年1月29日(金)
合格発表表	2027年2月中旬	

### 入学者選抜日程

※1.Cのカテゴリで出願しようとする方は、事前に出願資格認定審査を行います。  
※2.詳細は第一次選抜合格者に対して通知します。

## さまざまな学びと発表の場

研究指導や授業のほかにも、セミナーや講習会など、学びの機会が充実しています。さまざまな機会をとらえて自身の研究を深め、視野を広げることができます。

### 特別講義



● **特別講義**  
本コースの学生の専門性を高めると同時に、広く深い教養と知識を身につけ先進的な日本文学研究を行う優秀な人材を育てるため、特別講義を開いています。特別講義では、日常の授業ではふれられない角度からテーマを設定し、カリキュラムにはない基本的・応用的・先進的な研究動向などについての講義を行います。個々の専門的なテーマに基づき、その分野でご活躍中のコース内外の研究者をお招きして講義をお願いしています。

### ● 総研大文化科学研究

総合研究大学院大学は、査読付き学術雑誌『総研大文化科学研究』を年一回刊行しています。広く国内外から論文等を募集し、文化科学全般について国際的に開かれた総合学術誌として高い評価を得ています。院生にとって身近な論文発表の機会となっています。専門分野にとらわれない学際的、総合的な視野に立つ論文も歓迎しています。



そのほかにも、国文学研究資料館主催の国際日本文学研究集会、日本古典籍セミナー、若手研究者を対象とした古典籍講習会などに参加することができます。詳細については17ページ、18ページをご覧ください。

### 募集概要

募集人員  
博士後期課程 2名程度

### 出願資格

- 本学に出願できる者は次のいずれかに該当する者となります。
- A 修士または専門職学位を有する者
  - B 修士または専門職学位に相当する外国の学校等の学位をもつ者
  - C 修士または専門職学位に相当する学力のある者

### 学生募集要項及び出願書類様式集の請求方法

学生募集要項は8月末に、PDF版をウェブサイトで公開予定です。出願にあたり出願書類様式集をお求めの方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、入学を希望するコース（日本文学研究コース 博士後期課程）を明記のうえ、左記連絡先へ送信してください。

総合研究大学院大学 学務課学生係  
メールアドレス [gakusei@mli.soken.ac.jp](mailto:gakusei@mli.soken.ac.jp)

### 入学者状況

入学年度	志願者数	合格者数	入学者数
令和8年度入学	3	0	0
令和7年度入学	6	1	1
令和6年度入学	2	1	1
令和5年度入学	4	2	2
令和4年度入学	4	1	1

※特定のテーマについて研究する研究生・本学学生に対して開設する授業科目の科目等履修生・聴講生を受け入れています。詳しくは総研大ウェブサイトをご確認ください。

# 学位論文リスト

取得学位はすべて博士（文学）

## 1. 課程博士

合計 23 名（2026 年 4 月現在）

論文題目	氏名	取得年月	備考
近世期における定家様享受 切附本の研究	福原真子	2026/3	
一幕末明治期における 〈軍談・一代記〉読み 物の展開と様相	伊藤 美幸	2025/3	
日本近現代文学に於ける 〈精神の両性具有〉 表象研究	小野 光絵	2022/9	
『愚管抄』の学問史的研究	児島 啓祐	2022/3	2022年4月 第1回説話・伝 承学会奨励賞 2022年3月 第8回 SOKENDAI 賞
橋守国絵本の研究 —柏原屋の絵本出版活動と 橋守国の作画法を軸に—	古明地 樹	2022/3	2018年度全国 大学国語国文 学会第118回 大会研究発表 奨励賞
院政期和歌史の研究 —藤原師実・師遵父子 を中心に—	花上 和広	2021/3	
香道と文学 —江戸中期の香道伝書による 文学受容の研究—	武居 雅子	2017/3	
中・近世語り物の形成と 享受に関する研究	桑 汐里	2016/9	2017年9月総 合研究大学院 大学研究賞
『徒然草』の漢籍受容と 漢訳・継承	黄 昱	2016/3	2015年4月 第1回総研大 未来科学者賞 2016年9月 第21回長倉研 究奨励賞
建部綾足の研究 和学と和文体読本	紅林 健志	2015/3	
近世前期における古浄 瑠璃・説経本文の研究	林 真人	2015/3	
橋囃覧の研究 —漢詩の撰取を中心に—	王 曉瑞	2014/3	
林家の漢詩文と近世前 期の俳諧	陳 可冉	2012/3	2013年6月 第22回柿衛賞 SAA (SOKENDAI Alumni Ambassador)
枕草子における漢文学 受容の可能性	張 培華	2012/3	
近世前期朝廷とその周 縁の文事 —後醍醐天皇八宮良純 入道親王を軸として—	大内 瑞恵	2011/3	
近代文学成立期における山 田美妙についての研究	大橋 崇行	2011/3	2014年度全 国大学国語国 文学会文学・ 語学賞受賞 2020年6月 双葉文庫ルー キー大賞

論文題目	氏名	取得年月	備考
中世前期における和歌 表現の研究 —新古今の表現への道筋—	大野 順子	2011/3	
「異国合戦軍記」の研究 —朝鮮軍記物とその周辺—	金 時徳	2010/3	2015年東方 文学比較研究 会第5回 石軒学術賞
上方和学研究	一戸 渉	2010/3	2008年6月 第4回日本近 世文学学会賞 2013年9月 第6回日本古 典文学学術賞
令子内親王家の文芸活動 —院政前期の内親王と その周辺—	高野瀬 恵子	2009/3	
平安後期儒者文化圏の研究 「淋敷座之慰」の研究 —近世前期歌謡とその周辺—	七田 麻美子 中島 次郎	2009/3 2007/9	
源氏物語 鎌倉期本文 の研究	大内 英範	2007/3	

## 2. 論文博士

合計 14 名（2025 年 4 月現在）

論文題目	氏名	取得年月	備考
書物「発見」の文化史的考察	飯野 勝則	2024/9	
近世中後期における〈知〉 の伝播に関する研究 —歌壇・文事・蔵書—	中川 豊	2022/9	
元禄浮世草子の研究	藤川 雅恵	2021/9	
一九〇〇年前後の地方 青年における文筆活動 の研究 —文章回覧誌を中心に—	木戸 雄一	2021/3	
俳文芸史攷	塩崎 俊彦	2019/3	
藤原教長の口伝『才葉 抄』の研究	金子 馨	2019/3	
越前朝倉文化の研究	宮永 一美	2018/3	
明治開化期小説の研究 —仮名垣倉文と近世戯作—	山本 和明	2017/3	
芥川龍之介文学における モダニズムの諸相	高橋 龍夫	2017/3	
万葉集伝本の研究	田中 大士	2015/3	
一九二〇年代から三〇 年代の前衛詩運動と満 州における日本語文学の 研究	小泉 京美	2015/3	
西鶴小説新論 —東アジアへの視界—	染谷 智幸	2013/3	
江戸狂歌壇史の研究	石川 了	2010/3	
中古中世散佚歌集研究	久保木 秀夫	2008/3	

## 学位の取得について

### 1 修了要件

日本文学研究コースを修了するためには、以下の要件を満たさなければなりません。

- 本コースに3年以上在学すること。
- 履修規程に定める所定の単位数以上を修得すること。
- 指導教員から必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。

日本文学研究コースを修了すると、博士（文学）の学位が取得できます。

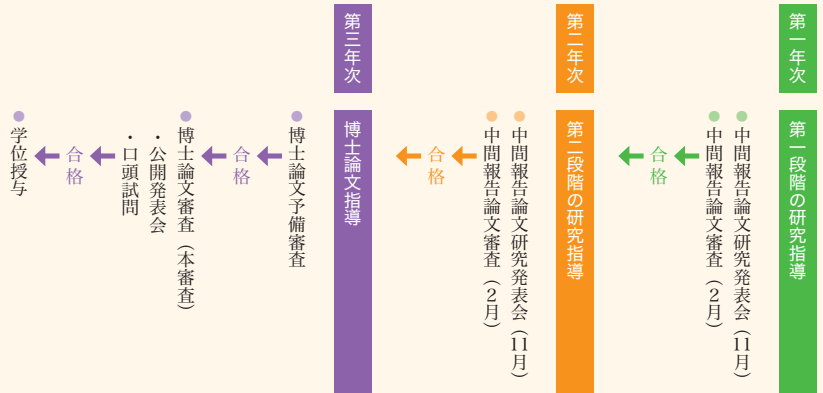
### 2 博士論文指導

学位取得のためには、博士論文審査に合格することが必要です。博士論文審査を受けるためには、所定の研究指導の段階を経て、博士論文指導を受けた上で、審査への出願を行う必要があります。

日本文学研究コースでは、研究指導を2段階で行っており、それぞれの段階における中間報告論文の審査を経て博士論文指導に進むこととなります。

十分な博士論文指導を受けた上で、博士論文審査を受け、合格した場合に学位が授与されることとなります。

## 3 学位取得までの主な流れ



## 修了生の進路

青山学院大学ヒューマンインノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湘北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育等

## SOKENDAI賞・研究科長賞

本学において、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめ学位を取得した学生に贈られます。

## SOKENDAI特別研究員制度

我が国の学術研究及び科学技術・イノベーションに貢献する人材育成のため、優秀な志のある学生をSOKENDAI特別研究員として採用し、経済的な支援（生活費相当額及び研究費の支給）を行うとともに、研究やキャリアについて幅広い視野を身に付けてもらうことを目的とした制度です。

全ての分野の学生を対象とした「一般枠」、将来的にAI分野またはAI分野における新興・融合領域を開拓・牽引するリーディングサイエンス・イニシアチブを育成することを目的とした「次世代AI研究者枠」、コースを超えた共同研究をもとに学位取得を目指す学生を支援する「共創研究型」の3種類があります。

## 在学生の声

宮本しえりさん

2025年4月入学

私は、専修免許状を取得するため、学部を卒業後、そのまま同じ大学の大学院修士課程へと進みました。修士課程に在籍して学ぶなかで、さらに深く明治期の幸田露伴について研究をしたいと思うようになり、博士課程進学を志しました。しかし、学部生のときから指導をいただいていた先生が2025年度をもって定年退職をされるということで、その先生のご助言もあり外部進学を考えるようになりました。

総合研究大学院大学に進学を決めた理由は大きく二つあります。一つは、総研大にご指導いただきたい先生がいらしたことです。もう一つは、入試説明会に参加し、研究環境の面で様々なサポートがあることを知り、研究の環境が充実していると感じたことです。特に、国文学研究資料館が基盤機関となっているため膨大な史料を研究に活用できるという点は私にとって本当に魅力的に感じました。

私はこれまで、近代文学の中でも特に明治期の作家である幸田露伴を研究の対象としてきました。幸田露伴は長い作家生活の途中、「天つと浪」という作品の執筆中絶を境に小説から史伝や考証、随筆などの方面へと文筆活動の重心を移しました。その萌芽を前期作品（「天つと浪」中絶以前の作品）にみることができると、この内容がこれまでの研究テーマです。総研大進学後は、幸田露伴の史伝や考証・重心を移したあとに随筆に数多く接し、小説中心の近代文学との問い直しや、近世文学との接続を考える実証研究を進めていきます。さらに、幸田露伴だけでなく明治期の作家・作品を幅広く研究していければと思っています。

坂井彪さん

2025年4月入学

私は中世の様々なテキストで見られる宝剣（富稚剣）叙述に関する研究を行っています。その上で、多くのテキストを扱ったことが肝要になりますが、日本文学研究コースの基盤機関である国文学研究資料館には、原本資料、紙焼き写真本、マイクロフィルム、その他図書や雑誌等、膨大な資料があるので、これらを活用して日々研究を進めています。本コースの院生は、書庫に立ち入って資料（貴重書や特別コレクション等を除く）を直接手に取ることができ、貸出の手続きを行えば、資料を研究室に置いておくことも可能です。国文研の豊富な資料を思う存分利用できる点こそが、本コースの最大の魅力と言えるでしょう。

専ら行っているのは資料だけではありません。本コースには研究に必要な書籍代、資料調査及び学会参加にかかる旅費、学会費等の補助や、リサーチ・アシスタントへの雇用といった経費支援制度があります。また、研究設備も整っており、院生二人につきノートパソコンが一台貸与される他、最近では院生に二種類のスキャナーが導入されたばかりです。さらに、国文研の図書館とは別に、いつでも自由に使える院生図書室があり、ここは院生の希望に応じて図書が配架されます。このように、複数の面で恵まれた環境に身を置いて研究に打ち込むことができます。

本コースの先生方のご専門は多種多様なため、授業もバラエティーに富んでいます。中でも、先生方がオムニバス形式で講義してくださる研究基礎論は、一年を通して多岐にわたる分野や領域のお話が増えるということで、院生の間で人気となっている授業です。

水嶋彩乃さん

2023年4月入学

私は日本文学研究コースにて、「鎌倉〜南北朝期の公家社会と芸能」というテーマで研究を進めています。当該期の公家社会の構成員がどのような人的・社会的関係を結んでいたか、その諸関係を前提に芸能、特に管絃がどのように担われてきたかを分析しています。

充実した研究指導と研究支援を受けた初年度を終え、本コースの進学を決断して本当に良かったと実感しております。講義では、研究テーマと密接に関係する、近世朝廷と公家の家業について学ぶことができました。受講前は、自身のテーマの最終的な到達点が近世の家業との接続になるだろうと漠然と考えていましたが、講義の中で家業という概念が想定以上に流動的だったことに気づき、研究の方向性を定めることができました。

中間報告論文の報告会は、私にとって大きな刺激となっています。私は在職しながらの在学であるため、仕事と学業を両立するうえで、ペリスの配分は非常に大切になります。中間報告論文を完成させるという目標が近くにあることで、研究を推進させることができました。また、他の在学生の皆さまと共通に報告を行うことも、励みになりました。多くの先生方から報告に関するご助言をいただけることも、本コースならではのと感じております。

研究支援については、オンラインでの報告会対応など、細やかな配慮をいただきました。感謝しております。特に、個人では契約できないデータベースをコースで導入いただいたことで、進学前と比べて研究環境が飛躍的に改善されました。この恵まれた環境を最大限に活かせるよう、日々考えながら、積極的に研究を進めてまいります。

## 学位取得者からのメッセージ

福原真子さん

2026年3月修了課程博士

### 私の博士論文としての研究

私の博士論文としての研究は、定家煇藤原定家による特徴的な文字造形系統の近世期における受容についてでした。定家の時代から遠く離れた近世期の定家の書風流行という現象は、書道史という範疇を超えて説明すべき要素を多く含んでいると考えられます。この研究に至った過程は、書道に関わってきた自身の経験がありました。書というものを、これまでのような芸術や書道教育という視点のみではなく、文学を軸とした日本文化のなかで「要素」として捉えてみたいという思いからでした。

### 日本文学研究コースの研究環境

このような私の研究は周辺領域に及ぶものであり、学際的な視点が必要となります。それが可能であったのは、日本文学のみならず、歴史学・アーカイブス学といった幅広い専門分野の先生方による、手厚いご指導とお力添えがあったからです。これは総研大の大きな特色であると思います。さらに、豊富な資料を所蔵する国文学研究資料館において研究を行うことも、他では得られないものでした。古典籍を実際の手取りで行えることは、私の研究において欠かせないことであると、共に研究者として大きな糧となりました。

### 経済面での学生支援

また、資料調査にかかる費用や、研究に必要な書籍購入など、経済的な面の支援も充実しています。そして、それらの申請手続きに伴う事務の方による迅速な手厚い対応は、研究活動に無くてはならないものでした。

### 学位取得を目指す方へ

私は、仕事と家事を両立しながらの博士課程であったことから、研究時間の確保が大きな課題でしたが、長期履修制を利用して5年間での学位を取得しました。5年間という時間もこれ以上とは思いますが、あつという間では、自身の経験からも長くから学位取得を目指す方には、計画性を持って研究に臨んでほしいです。そして、国文学研究資料館の膨大な資料と、総研大の多様な学びの機会を大いに活用していただきたいと思っています。

伊藤美幸さん

2025年3月修了課程博士

### 進学のきっかけ

私は学部・修士課程を芸術学専攻で過ごし、博士課程からは自身の研究と関わりが深い日本文学研究専攻への進を決めました。もともと、実物資料の近くで学びたいという思いが強かったので、豊富な古典籍を閲覧できる国文学研究資料館の環境で、またここは、私にとって非常に意味のある時間となりました。また、学生数が少ないので、講義や研究指導は、一対一で行うことが多く、手厚いご指導をいただくことができた点もありがたく思っています。

### 充実した国文学研究資料館の環境

私は切附本（幕末明治期に出版された中本書型の読み物で、題材は一代記・軍談・敵討等）を研究していますが、自身の研究対象だけではなく、同時期に制作された出版物を多く見ることが研究を進める上で非常に重要となってきます。膨大な資料を所蔵する国文学研究資料館の環境で、江戸後期から明治二十年代に制作された版本や写本などを多数閲覧することができ、資料に対する洞察力や感性が着実に養われました。また、資料に対するこうした、研究の一步を踏み出すべき方向性や手応えを得られたことは、国文研に在籍していただければならないものでした。

### 学位取得までに苦労した点

これまでの投稿論文を単体と並べただけでは博士論文にはなりません。博士論文全体の一貫性を意識しながら、最終的研究目的、意義、方法、主張などが適切かどうかを見極めるのが難しかったです。また、表記揺れの修正をはじめ、図版や表の調整といった細かい作業も多く、手間と時間がかかりました。

### 学位取得を目指す方へ

時間を始め、計画的に進められるようにと思います。また、国文学研究資料館が所蔵する膨大な資料や研究データを大いに活用してください。

飯野勝則さん

2024年9月学位取得論文博士

### 私にとっての博士論文

私が博士論文で取り組んだ研究は、江戸期から現代にいたるまでの本邦の人々が、書物や文献を見つけたときに講じてきた改変や、それらにどう思想について分析を行い、文化史的視点から考察をしたというものでした。具体的には、江戸期に出現した本邦の類書や類句と称される索引・明和期から昭和初期の国歌大観をめぐり、動向、そして時のデータベースなどを対象として取りあげました。私は二十年以上、大学図書館に勤務してゆき、とくにこの十年は、実務を通じて、これら検索ツールに関する研究を継続して行っています。言うならば、私の博士論文は、その延長としての研究成果をまとめたものということができます。

### 日本文学研究コースと論文博士

二十代の頃、諸事情から博士課程の進学を断念した当人にとって、博士の学位を取することは、ある意味願望でもありました。ですが、地方に在任し、家庭を有する社会人にとって、改めて博士課程へ進学することは、斟酌すべきことが多く、敷居が高いものです。そのような状況にあつて、論文博士の道筋を用意している日本文学研究コースの存在は、一筋の光明でありました。私と似た境遇にあり、国文学で博士の学位取得を目指す方であれば、おさへく同様の感慨を抱かれるのではないでしょう。

### 振り返りとして

社会人としての博士論文の執筆は時間の確保に苦労しました。時に孤独にいなまれ、困難を感じることがありました。ようやくとどろき出し口頭試問では、先生方より、多様な問題点を厳しくご指摘いただきました。またお叱りを受けましたが、いずれも研究内容の改善に資する程ばかりで、大変にありがたい経験となりました。学位授与の通知を頂いた際の喜びは言葉に鮮明な体験がでています。改めて思えば、これは学術的に濃密かつ貴重な体験ができたのも、本気で学位取得を志したからにはなりません。博士の学位を取得したい方には、ぜひとも勇気を以て挑戦していただければ幸いです。

## 総合研究大学院大学について

### 創設の趣旨

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等との緊密な連係及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献することを理念に、1988年に我が国最初の国立大学院大学として創設されました。

総研大の最大の特徴は、大学共同利用機関等の世界トップレベルの研究環境を教育の場としている点にあります。

大学共同利用機関は、個々の大学では整備できない大規模な施設・設備、大量のデータや貴重な資料等の研究資源を全国の大学の研究者に提供するとともに、国内外の研究者との多彩な共同研究を通じて、我が国の先端学術を牽引する研究拠点の役割を担っています。

総研大は、そのような基盤機関の優れた研究環境において、各研究分野の豊富な研究者集団を教授陣とし、高度な専門教育を提供します。

## 自立した研究者の育成

総研大は、「自立した研究者」として必要な5つの力量を備えた博士人材の育成を行います。

### ◆専門力

自らが専門とする学術領域に蓄積された知見と方法論を修得し、それらを応用して高度な研究を推進することができると。

### ◆独創性

自らの専門性に立脚しつつ、学際的な視点から周辺領域の課題に取組み、幅広い学術の進展に資することができる。

### ◆学際性

研究を通して事象を深く理解し、自由な着想に基づいて未踏の課題に挑戦し、新たな知的価値を生み出すことができる。

### ◆国際力

自らが行う学術研究の社会的な意義や位置づけを認識し、研究者としての倫理観と責任感を持つて行動することができる。

### ◆倫理性

国・地域・言語・文化・性別・宗教などに捉われない理解と協働に基づき、高い普遍性をもつ学術成果を発信することができる。

## 先端学術院について

総研大は、世界最先端の研究拠点を教育の現場として、高い専門性を持った博士人材を育成してきました。

一方で、刻々と変化する学術分野の動向や社会の要請を踏まえ、複合的・融合的な課題に取り組む博士人材を育成していくには、高度に専門的なりソースを、より分野を超えて柔軟に活用できる体制が必要と。

そのため、総研大はこれまでの教育体制を見直し、2023年4月1日、先端学術院を設置しました。同時に、新たに国立国語研究所及び総合地球環境学研究所を、本学の基盤機関に迎え、教育環境の更なる充実を図りました。

先端学術院では、基盤機関に支えられた20コースが設置されます。これにより、学問分野の垣根を超え、基盤機関の多彩な教育リソースを全学でより柔軟に活用できる教育環境を提供します。

## よくある質問

### Q1 他大学の文学研究科と比べてどのような特徴がありますか。

最大の特徴は、大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とした、博士課程後期のみ大学院である点です。国文学研究資料館は国内外の研究者が集うトップレベルの研究機関で、重要文化財をはじめとする膨大な研究資源と、国内外の充実した研究ネットワークを有しています。本コースではそれらを縦横に活用し、最先端の研究に触れながら、深い専門知識と総合的な分析力を修得できます。なお、総合研究大学院大学はすべての大学共同利用機関を基盤機関としているので、他コースの授業も受講でき、視野を広げるのに最適な環境といえるでしょう。

### Q2 3年で学位を取得するのは難しいですか。

3年で学位を取得することは可能ですが、堅実な計画性と弛まぬ努力が必要です。学位の取得はゴールではなく、その後の研究者人生への第一歩です。基礎学力と柔軟な思考力を身に付け、研究力を養うことが肝要です。

### Q3 授業料免除などの支援制度はありますか。

各学生の経済状況に応じて、授業料の免除制度、日本学生支援機構による奨学金の他、各種奨学金制度を活用できます。また、大学院に関連する業務を行いながら給与を得ることができる「リサーチアシスタント制度」や、

研究費の措置があり、授業料の負担軽減と研究のスムーズな遂行を支援しています。

### Q4 受験する前に希望する指導教員を決めておく必要がありますか。

必ず決めておく必要はありませんが、出願前に指導を受けた教員に連絡し、入学後の研究などについて相談することをお勧めします。また、毎年秋に入試説明会を実施しますので、是非、参加してみてください。

### Q5 留学生を受け入れていますか。

4月入学の一般入試を受けていただくこととなります。また、研究生等の制度もあります。詳細については、総合研究大学院大学ウェブサイトを御覧ください。これまで受け入れた留学生の多くは学位を取得しています。

### Q6 最大何年まで在学可能ですか。

修業年限は3年を標準としますが、最大5年まで在学が可能です。また、在学期間とは別に最大2年まで休学が可能です。なお、総合研究大学院大学には、仕事、家事、育児介護など、さまざまな事情がある方について標準の修業年限を超えた期間で計画的に課程を履修することを認める「長期履修制度」があります。

### Q7 仕事をしながら学位を取得することは可能ですか。

可能です。これまでも本コースに学んで学位を取得し、活躍している社会人学生がい

ます。本コースでは、仕事と研究の両立を目指す学生に対して細やかな支援を行います。長期履修制度の利用も可能です。ただし、勤務先との調整は必要となりますので、事前に相談を行ってください。

### Q8 課程を単位取得退学したのちでも、審査を受けて課程博士の学位を取得することはできますか。

単位取得退学後に博士論文審査を3年以内に合格した場合、課程博士として扱われます。

### Q9 在学中に指導教員が変わることはありますか。

指導教員の転出などにより、指導教員を変更することがありますが、博士論文の執筆に支障が出ないよう、十分に配慮しています。

### Q10 修了後、国文学研究資料館で研究を続けることは可能ですか。

「博士研究員」の制度があります。無給ですが、国文学研究資料館の施設を使用して研究を継続できます。博士の学位を取得後、5年を経過していない者、常勤の職に就いていない者、国文学研究資料館の研究・事業関連の諸行事に協力できる者などが対象です。

## 国文学研究資料館の概要

### ◆基幹事業について

日本文学及びそれに関連する諸資料を調査・収集し、データベースとして整備公開するなど、その保存と利用を推進しています。とくに古典籍の画像化は、次項に示したプロジェクト事業とともに文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の継承に大きな貢献を果たしています。研究成果は講演会、展示及び刊行物等により、公開しています。

### ①調査および画像作成

全国の大学等の研究者と連携し、古典籍及び近代文献、歴史資料の調査研究を行っています。また、各地の図書館・文庫等に所蔵される原典資料をデジタル画像として撮影し国書データベースにより一般に公開しています。これまでに収集してきたマイクロフィルムのデジタル化も進めています。

### ②図書館

当館の図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度や直接申込により、資料の複写等のサービスが利用できます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。

### ③日本の古典文化の発信

日本の古典文化とそれに関わる研究成果を社会に還元するため、講座や展示を開催しています。

### ④日本古典籍講習会

図書館員や若手研究者を対象に、日本古典籍及び書誌学の基礎知識などの修得を目的とした研修を行っています。講師は当館の教員です。過去の講習会テキストは学術情報リポジトリから公開されています。

### ⑤アーカイブズ・カレッジ

近年、アーカイブズ（公文書や古文書等）の重要性に対する認識が高まり、アーキビストの養成が急務となっています。当館では、このような動きに応えるべく、アーカイブズ・カレッジを実施し、最新の専門的知識、技能の普及に努めています。



国際日本文学研究会

### ◆プロジェクト・共同研究事業について

①データ駆動による課題解決型人文学の創成  
— データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓 —

当館では、文系唯一の大規模学術フロンティア促進事業（文部科学省）として、本プロジェクト（国文研DDHプロジェクト）を、2024年度から2033年度までの十年計画で実施しています。

国文研DDHプロジェクトでは、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充、画像データのAI活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進等、日本文学を中心とするデータインフラを構築し、様々な課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との共同による大規模データを活用した次世代型人文学研究を開拓することを目指しています。

### ②共同研究

日本文学研究の新たな方向性の創出と、研究交流推進のため、多くの若手研究者を迎えて、次の共同研究を実施しています。

### 《基幹研究、特定研究》

資料の調査研究と国内外の諸機関との研究交流に基づき、日本文学等の基礎研究と国際研究の新たな展開を図る共同研究

### 《国文研プロジェクト型共同研究》

日本文学以外の分野の研究者が参画し、研究基盤を用いて実施する異分野融合研究

### ◆国際交流事業と若手育成

①国際日本文学研究集会・日本古典籍セミナー等  
日本の文学は世界中で研究されており、多様な研究の視野と手法の共有は、日本文学研究にとって大切な課題です。国文学研究資料館では創立以来、毎年開催している国際日本文学研究集会をはじめ、海外諸機関と連携した日本古典籍セミナーや文献資料ワークショップ、日本古典籍（くずし字）講習会の開催など、活発な国際交流活動を展開し、その活動を通じて国内外の若手研究者の育成にも取り組んでいます。

このうち国際日本文学研究集会の発表者は、研究発表だけでなく、『国文学研究資料館紀要 文学研究篇（査読誌）』への投稿資格が与えられます（審査あり）。

また、日本文学及び日本語の歴史的典籍に関する幅広い分野の英語での論文を掲載するオンラインジャーナル「Studies in Japanese Literature and Culture」では、広く投稿を受け入れています（査読あり）。

### ②特別共同利用研究員制度

日本国内の大学院生を特別共同利用研究員として受け入れ、研究指導を行っています。

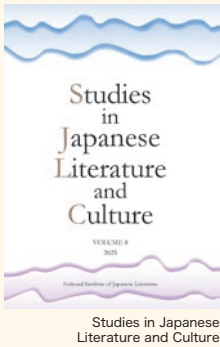
### ◆古典籍文化の利活用と社会連携

### ①ないじえる芸術共創ラボ

— アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ  
「ないじえる」とは当館の英語表記の略称であるNIJLによる命名です。アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に当館の豊富な古典籍に触れていただき、研究者とのワークショップを通して、古典籍の新たな魅力の発見と、文化芸術的価値の創造を試みるものです。様々な活動をSNSやWEBサイトから発信し、ラポで起る様々な化学反応を広く伝えています。

### ②ぶらっとくぶんけん

国文学研究資料館が位置する多摩地域における学術・文化の発展を目的として、企業、自治体、大学等の各種団体を構成するプラットフォーム「ぶらっとくぶんけん」を設立し、講演会やデータベースを活用した各団体との連携協力を行っています。



国文学研究資料館外観



表紙等画像：国文学研究資料館蔵「毎月抄」<https://doi.org/10.20730/20000981>